

清水港の港湾統計(令和 6 年速報値)



清水港管理局 企画整備課

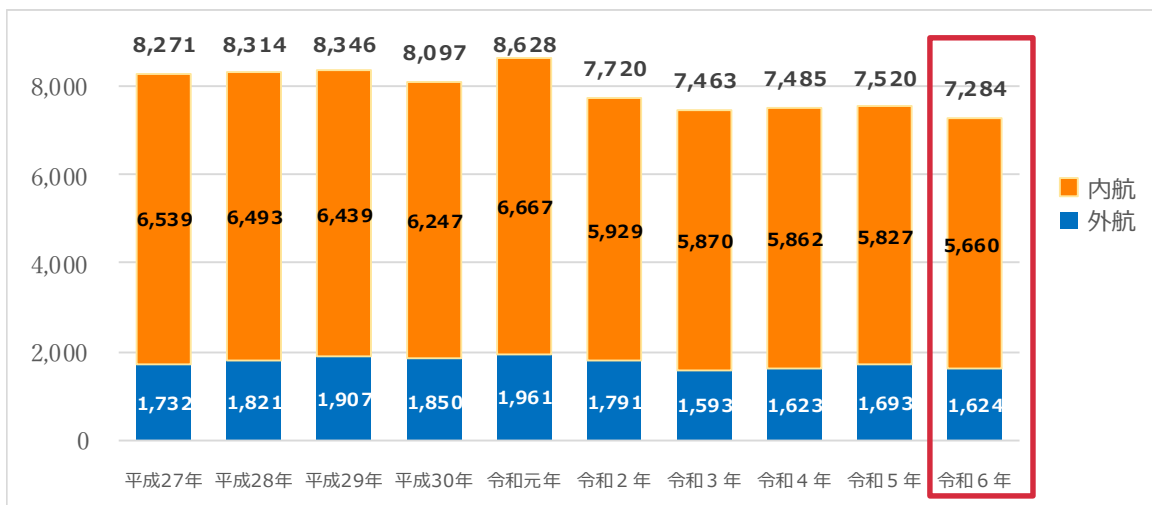
1 はじめに

「港湾統計」は、港湾の実態を把握し、港湾の開発、利用及び管理等の基礎資料を得ることを目的とした調査である。この統計は、仕出仕向国別に清水港の概況を取りまとめたものである。

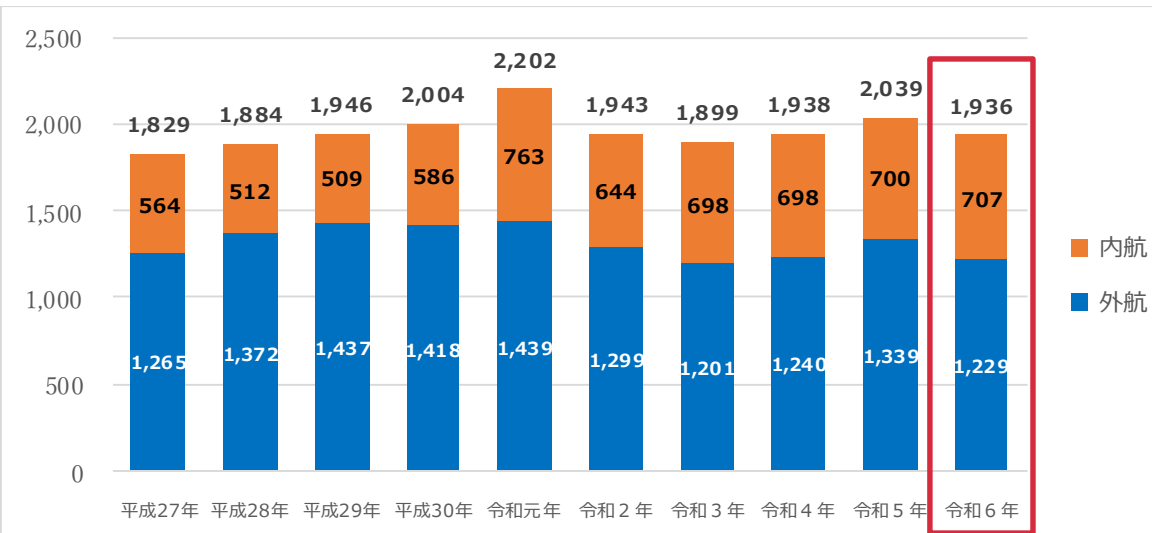
2 入港船舶数(令和 6 年速報値)

令和 6 年の入港船舶数は、外航船 1,624 隻、内航船 5,660 隻の合計 7,284 隻で、対前年比 96.9%だった。船種別では、コンテナ船は外航コンテナ船 1,229 隻、内航コンテナ船 707 隻の合計 1,936 隻で、対前年比 94.9%だった。客船は外航客船 81 隻、内航客船 6 隻の合計 87 隻で、対前年比 152.6%だった。なお、客船は、コロナの影響により令和 2 年から外航客船の受け入れを停止していたが、令和 5 年 3 月 1 日から、受け入れを再開し、2 年連続して過去最多の入港数となった。

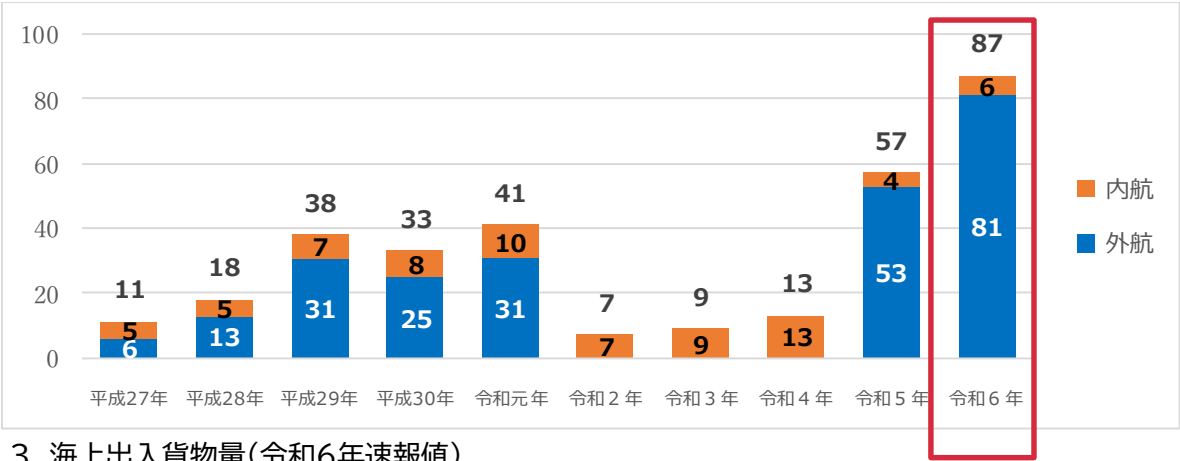
2-1 推移(全船種) (単位:隻)



2-2 推移(コンテナ船) (単位:隻)



2-3 推移(客船) (単位:隻)

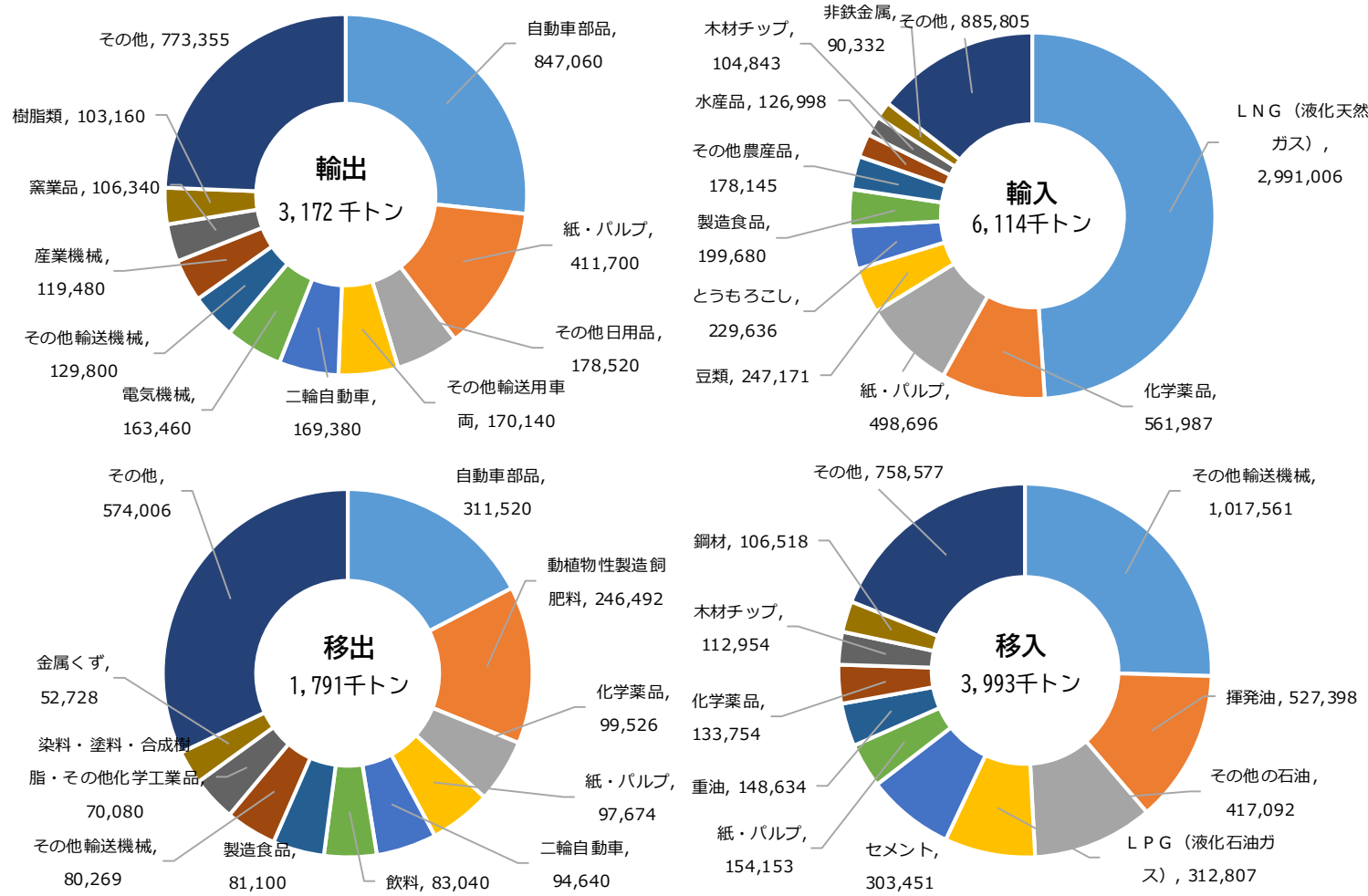


3 海上出入貨物量(令和6年速報値)

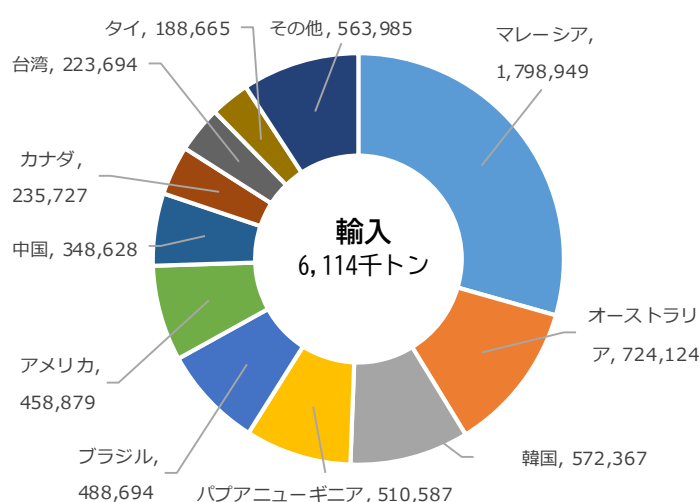
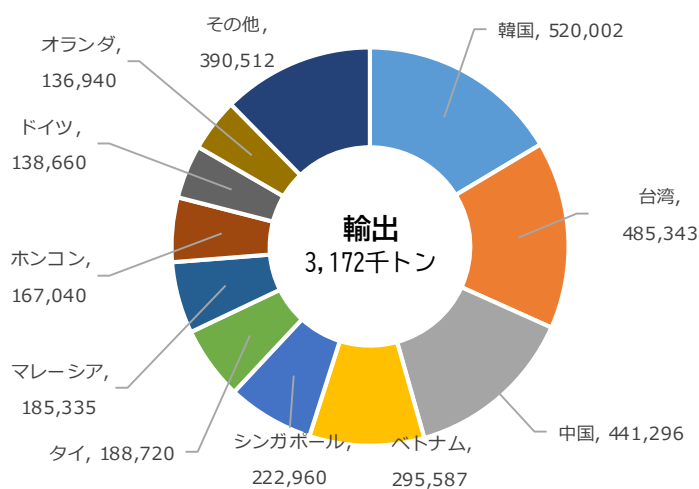
令和6年の海上出入貨物量は、15,347千トン(フェリー貨物含む)で、対前年比96.9%だった。品種別では、輸出は自動車部品の取扱が多く、輸入はLNG(液化天然ガス)の取扱が多かった。仕出仕向国別では、輸出は韓国・台湾・中国といった東アジア地域の取扱が多く、輸入はマレーシアやオーストラリアの取扱が多かった。

区 分	輸 出	輸 入	移 出	移 入
貨物量	3,172 千トン (対前年比 95.3 %)	6,114 千トン (対前年比 103.2 %)	1,919 千トン (対前年比 99.4%)	4,142 千トン (対前年比 89.2 %)

3-1 品種別 (以下はフェリー貨物を除く。)(単位:トン)



3-2 仕出仕向国別（単位:トン）



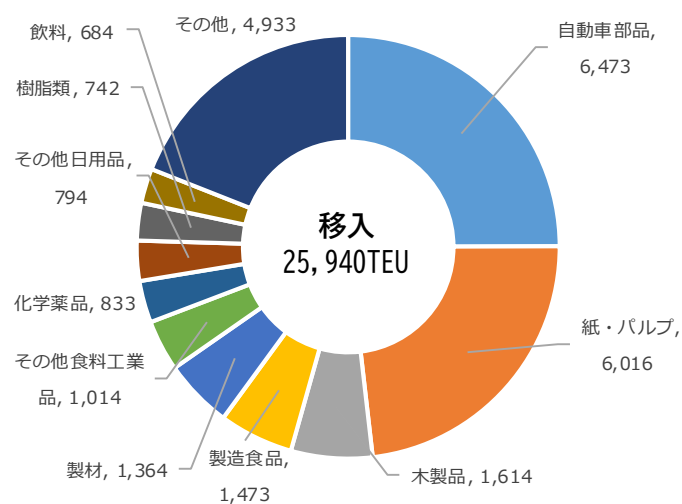
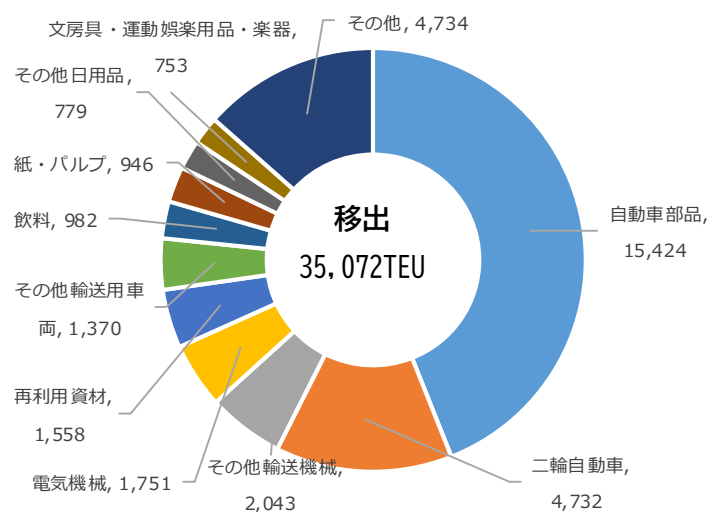
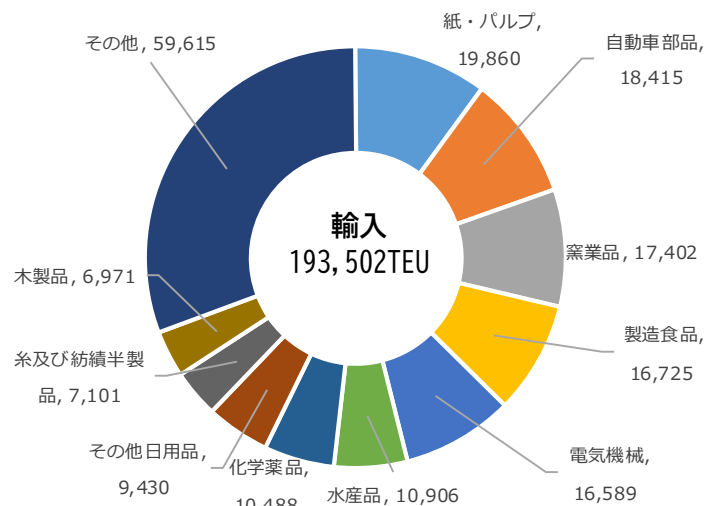
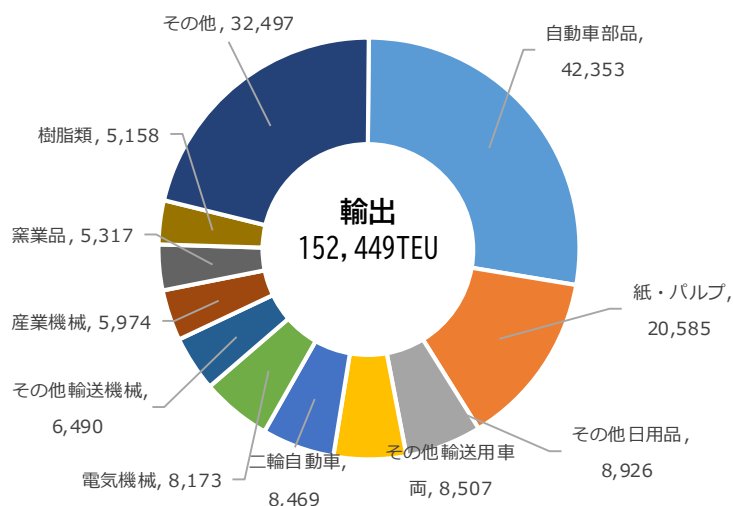
4 コンテナ取扱個数(令和6年速報値)

令和6年のコンテナ取扱個数（実入り・空の合計）は、514,305TEU*で、対前年比100.2%だった。品種別では、自動車部品の取扱個数が多く、仕出仕向国別では、韓国・中国・台湾といった東アジア地域の取扱個数が多かった。

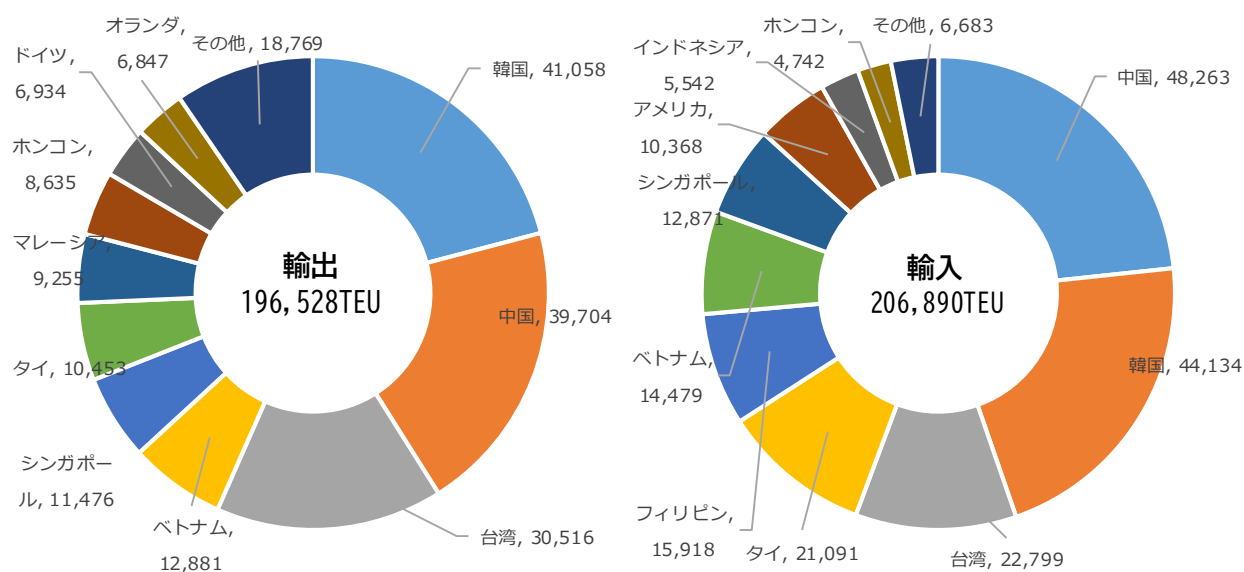
区分	輸 出	輸 入	移 出	移 入
貨物量	196,528 TEU (対前年比 96.2 %)	206,890 TEU (対前年比 100.3 %)	57,873 TEU (対前年比 108.7 %)	53,014 TEU (対前年比 106.9 %)

*TEUとは20ft.（コンテナの長さ）換算の取扱個数の単位。20ft.コンテナ1個を1TEU、40ft.コンテナ1個を2TEUとして計算している。

4-1 品種別（単位:TEU） ※空コンテナは除く。ROROの実入りコンテナはその他に含む。



4-2 仕出仕向国別



4-3 推移

直近10年のコンテナ取扱個数は、平成30年が1番多く567,460TEU、次いで令和3年の562,610TEUとなっている。令和6年の取扱個数は、直近10年間で7番目となっている。一方で、移出については、令和6年の取扱個数が最も多かった。

